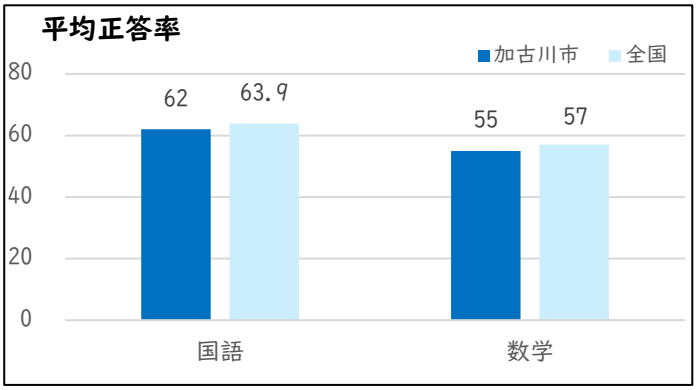
保護者のみなさんとともに考える

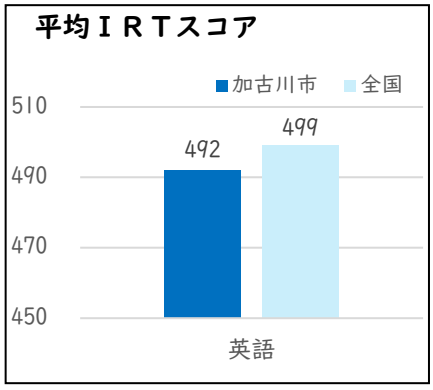
加古川市の学力・学習状況（中学校）

令和８年度 全国学力・学習状況調査の結果から

令和8年4月、生徒の学力・学習状況の分析、成果と課題を把握し、授業改善を図ることを目的として、全国学力・学習状況調査が行われました。
この調査における加古川市の生徒の現状を分析し、結果をまとめました。

- ３教科とも平均正答率（以下、正答率という）は、全国平均（以下、全国という）と同程度です。
- 基礎的な知識や技能は身に付いており、成果がみられます。
- 思考力、判断力、表現力について、課題がみられます。
- 記述式問題で、自分の考えを書くことに、課題がみられます。
- 生徒一人一人が自分の考えをもつことができる学習課題を設定し、多様な考えを関連付けながら深い理解につなげていく協同的探究学習※の理念に基づいた授業を各教科で継続していくことが大切です。





＜ＩＲＴ※スコアとは＞

ＩＲＴ（項目反応理論）に基づいて各設問の正誤パターンから学力を推定し、５００を基準にした得点で表すものです。

令和７年度の中学校理科の調査からＩＲＴスコアが採用され、今年度は、中学校英語の調査で、コンピューター端末を使って実施しています。

ＩＲＴ※についてはこちら

掲載している内容は、学力・学習状況の一側面を示すものであることを踏まえつつ、**以下のポイント**に示すような「協同的探究学習※」の大切な考え方を共有します。授業の改善や家庭との連携のあり方についてともに考えるきっかけとし、これからの時代に求められる資質・能力の育成を図ります。

協同的探究学習※についてはこちら

国語科

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる問題

【問題】４四

林さんは、本文を読んで理解したことをより深めるために、＜具体的な場面＞を思い浮かべながら、２種類の例文を書いてみました。あなたは、＜例文１＞と＜例文２＞を比べて、擬態語にはどのような効果があると考えますか。あとの条件１と条件２に従って書きなさい。

条件① ＜例文２＞の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くこと。

条件② 条件１で書いたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くこと。

【正答例】

・「きっぱり」は、生徒が先生に向かって、自信を持って力強く言い切っている様子を表している。このように、擬態語は話している様子の包括的なイメージを表現することができる。

・「きっぱり」は生徒が自信を持っている様子が伝わる。擬態語を使うことによって、様子をありありと映し出すことができる。

〈本文「会話の表情をあらわす擬音語・擬態語」から〉

6 こんな風に思いつくままの例を見ただけでも、ことばのやりとりの様々な側面に現れる表情を擬音語・擬態語がありありと映し出していることがわかる。たとえば、「彼はぽつりと答えた」と聞けば、その「ぽつり」という語から、私たちは「彼」のその時の声の大きさや調子、言い方、答えるまでの間のとり方、表情などのイメージを心に思い描く。正確には、一つ一つの要素を個別に考えるというより、それら全部を包括的に含んだイメージを得る。（後略）

〈具体的な場面〉



〈例文１〉（擬態語を使っていない例文）

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

〈例文２〉（擬態語を使った例文）

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒はきっぱりと言った。

擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くことはできていますが、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くことができていない解答が多くみられました。

条件①だけであれば対応できる力は備わっているため、本文の叙述を根拠にして、具体的な場面を説明する学習に取り組むことで、自分の考えを表現する力が育まれます。生徒一人一人が自分の考えを持ち、クラス全体で探究しながら多様な意見を出し合い、再度考え直していくことで問題の本質を捉えることができます。

国語科だけでなく、様々な教科、日常生活の中で、答えの正誤ではなく「なぜそう考えたのか」、考えの根拠を明確にしたり、「どうしてそう思ったのか」、考えの意図を聞いたりすることで、一人一人の考えを深めていくことが大切です。

数学科

数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題

【問題】７（２）

光希さんのクラスでは、クラス紹介の動画を撮影することになりました。

光希さんは、１０００ＭＢのデータ量で撮影できる動画の時間を調べるために、調べた結果をグラフに表しました。

動画の時間とデータ量のグラフにおいて、原点Ｏから点Ｄまでの点が一直線上にあるとし、動画の時間を長くしても、動画の時間とデータ量の値の組を座標とする点が同じ直線上にあると考えます。

このとき、データ量が１０００ＭＢになるときの動画の時間はおよそ何秒になるかを求める方法をｘ座標やｙ座標、ｘの値やｙの値など、ｘやｙを使って説明しなさい。ただし、実際に時間がおよそ何秒になるかを求める必要はありません。

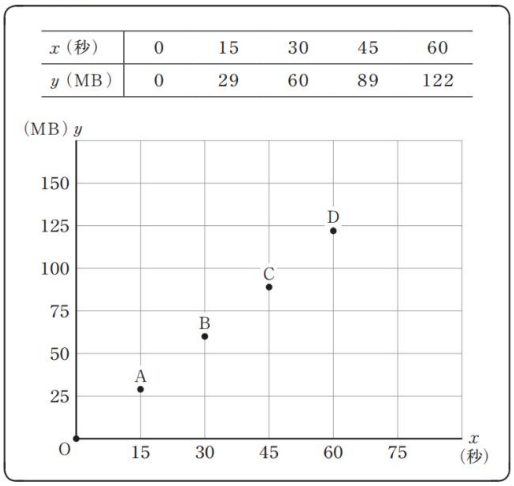
（「全国学力・学習状況調査 中学校第３学年数学」を一部編集して掲載）

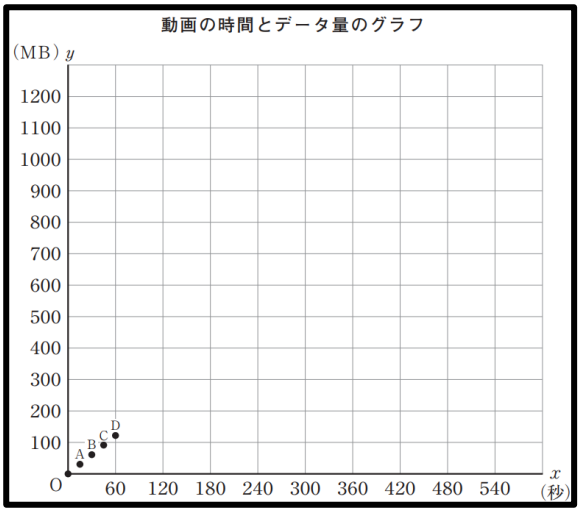
【正答例】

原点Ｏから点Ｄをもとに、直線のグラフをかき、ｙ座標が１０００のときのｘ座標を読む。

調べた結果

x（秒）	0	15	30	45	60
y（MB）	0	29	60	89	122





比例の式や一次関数の式を立てたり、表や数値からグラフを用いたりすることはできていますが、自分の言葉で説明できていない解答が多くみられました。

生徒一人一人が、自分なりの方法で問題を解決するとともに、「なぜその方法を選んだのか」「どのような手順で求めたのか」理由や根拠を記述することが大切です。その際、表から変化を読み取る方法や、グラフを延長させて考える方法、ｘとｙの関係を式で表す方法など、多様な考え方をもとに、それぞれのよさに気付いていくことが大切です。

クラス全体で探究する場面では、生徒同士が表、グラフ、式を用いたそれぞれの解決方法について比較しながら考え方の共通点や相違点を整理し、関連付けながら論理的に考察することが重要です。また、「なぜその方法で求めることができるのか」、問題解決の過程を振り返り、数学的な表現を用いて事象を的確に表現することが重要です。

さらに、次のステップとして条件を変更した課題や日常生活に結び付けた課題を設定し、新たな状況について予想したり説明したりすることで、生徒の考えの深まりや新たな気付きの実感につながることが期待できます。

このような学習を積み重ねることで、生徒の興味関心や新しい課題に挑戦しようとする姿勢につながり、学びの好奇心と挑戦心、主体的な学習態度の育成につながります。

英語科

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる問題

【問題】１２

あなたは、中学生になってからの思い出（My Memory）を【英語新聞】にまとめることになりました。思い出を１つ取り上げ、「そこであなたが体験したこと」と「感想」を、１５語以上３０語以内の英語で書きなさい。なお、思い出は【例】を参考にしてもかまいません。

条件① 15 語以上 30 語以内の英語で書いている。
条件② 中学校での思い出を１つ取り上げ、
そこで体験したことを書いている。
条件③ 条件②の感想を書いている。

【正答例】

・My best memory is the school trip. I went to Kyoto in April. I saw a lot of temples and shrines there. They were very beautiful.（２６語）

・My memory is the music festival. I enjoyed singing a song with my classmates. The practice was hard, but we enjoyed it.（２２語）

【英語新聞】



【例】

- 学校行事
  - 文化祭(the school festival)
  - 体育祭(the sports festival)
  - 音楽祭(the music festival)
  - 修学旅行(the school trip)
  - 職場体験(the work experience)
- 授業
- 習い事
- 趣味
- 日常の出来事
- その他

事実や自分の考えを書くことはできていますが、気持ちを表すことができていない解答が多くみられました。

まず、日常的な話題やテーマについて、生徒一人一人が自身の経験やその時の気持ち、自分の考えや「なぜ」「どうして」などを振り返り、整理しながら書くことが大切です。日本語で書くことも認めながら、箇条書きやマッピングなどの構成メモを作成し、メモをもとにクラスで多様な意見を出し合い、それらを関連付けていく中で自分の考えを深めたり、再構築したりするといった「話すこと」と「書くこと」の領域を統合した活動を行うことも効果的です。

クラス全体で探究する場面では、多様な意見を出し合い、関連付けながら共通点や相違点を整理していく中で、自分の考えを深め、生徒自らが新たな語彙を身に付け活用するなど、語彙力や表現力の幅を広げることができます。

また、まとまりのある文章を書くために、全体として一貫性のある文章を読み、書かれている文章の構成を理解するなど、読むことも大切です。英文の表現や文章全体の構成を参考にして書いたり、自分が書いた文章と比較しながら推敲したりすることにもつながります。どのように表現したらよいか分からない場合には、読んだ文章から参考になりそうな表現を選んで書くなど、書くことに慣れることも有効です。

生徒の学力を育む　家庭での取り組みポイント

読書

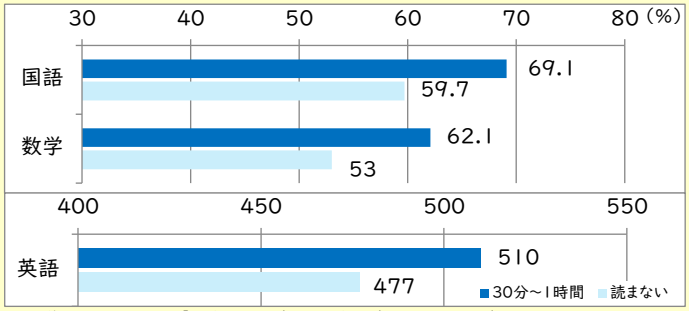
普段から読書をしていたり、放課後や休日に地域の図書館に行ったりすると回答した生徒ほど、正答率が高い傾向がみられました。読書に親しむことで新たな知識を得たり、視野を広げたりすることができます。

加古川市では、いつでも読書ができるように、電子図書館に「読み放題」のコンテンツを導入しています。

利用者 ID とパスワードは生徒が持っていますので、生徒の読書にぜひ活用してください。

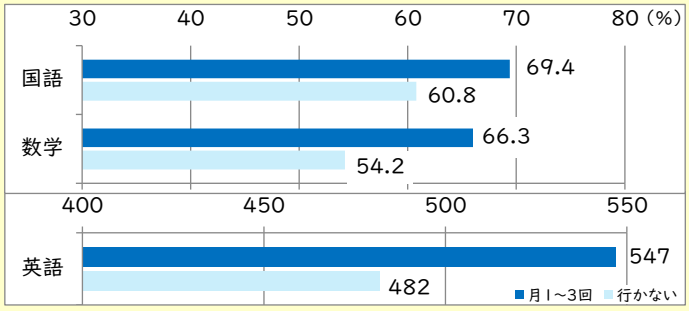
電子図書館
「読み放題」

学校の授業時間以外（月～金曜日）の
一日あたりの読書時間と生徒の正答率



※回答項目には、他に「２時間以上／１～２時間／１０～３０分／１０分以内」がありました。
※IRT スコアには、単位がありません。

放課後や休日に本を読んだり借りたりするために、図書館に「月１～３回行く／行かない」と答えた生徒の正答率



※回答項目には、他に「週４以上／週１～３回／年に数回／ほとんど行かない」等がありました。
※IRT スコアには、単位がありません。

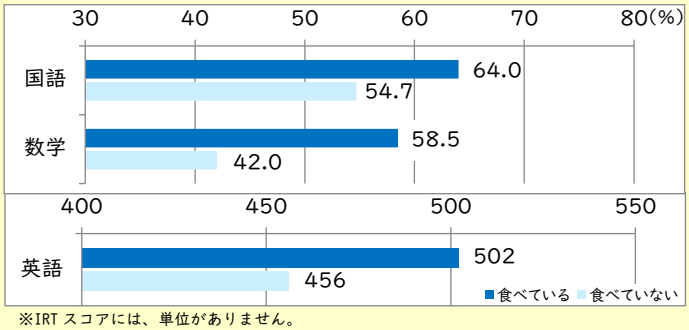
早寝・早起き 朝ごはん

生徒の学力向上には、学校での授業や家庭学習の充実に加え、規則正しい就寝や起床、毎日朝食を食べるなど、基本的な生活習慣を整え、家庭での生活を充実させることも重要です。

朝食を、毎日「食べている／食べていない」と答えた生徒の正答率

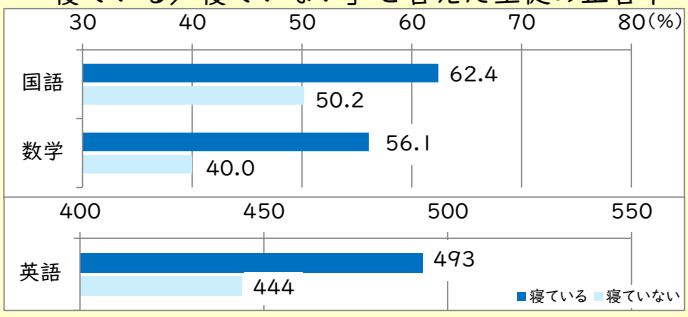


加古川市
食育マスコット もぐピー



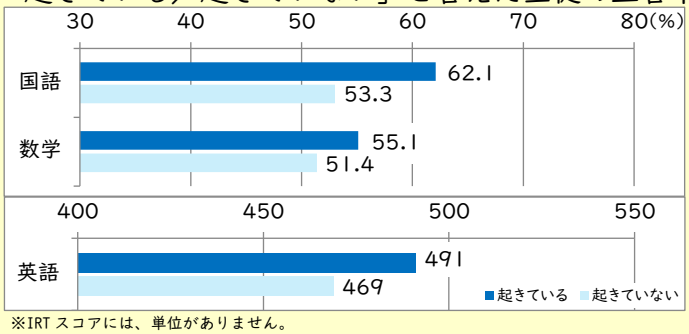
※IRT スコアには、単位がありません。

毎日、同じくらいの時刻に
「寝ている／寝ていない」と答えた生徒の正答率



※IRT スコアには、単位がありません。

毎日、同じくらいの時刻に
「起きている／起きていない」と答えた生徒の正答率



※IRT スコアには、単位がありません。

基本的な生活習慣のほか、
家庭教育で大切なことについて、
冊子にまとめています。
こちらもぜひご覧ください。

家庭教育

「家庭教育１・２・３」

会話

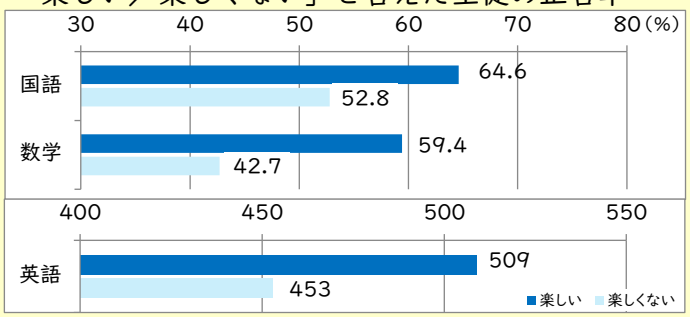
授業では、「**協同的探究学習**」の理念を取り入れながら、一人一人の生徒の考えを学級全体で共有し関連付けることで、生徒は、新しいものの見方や考え方に気付いたり、自分の考えを深めたりしています。

家庭でも、様々な話題について、生徒が自分の考えや考えた理由を説明したり、保護者の考えを聞いたりすることは、新しい見方や考え方にふれるきっかけになります。

また、生徒は、自分の考えや思いが受けとめられることで、認められたと感じる機会にもなります。

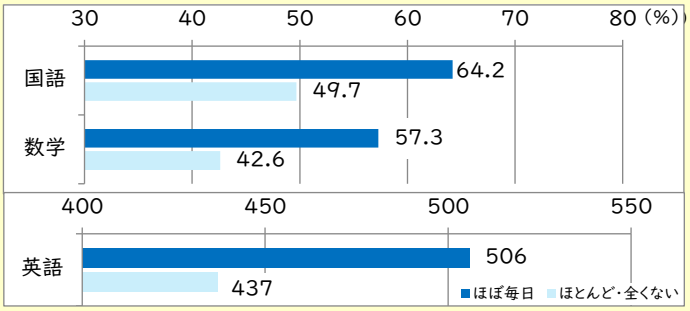
家庭で、今日どんな学習をしたのか、どんなことを考えたのか等、会話することが大切です。

自分と違う意見について考えるのは
「楽しい／楽しくない」と答えた生徒の正答率



※IRT スコアには、単位がありません。

学校の勉強のことについて、親や家族と
「ほぼ毎日話す／ほとんど・全くない」と
答えた生徒の正答率



※回答項目には、他に「週１～２回／月１～２回／年１～２回」がありました。
※IRT スコアには、単位がありません。

学校での学習に関すること以外に
このような話題も考えられます。

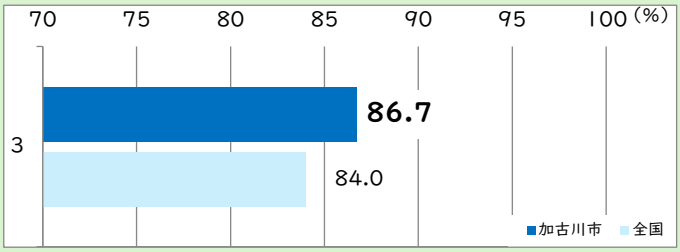


加古川市
まちの魅力発信
キャラクター
かこのちゃん

・学校生活（友だち、先生など）
・日々の出来事（最近あった面白いこと、ニュース）
・将来について（進路、夢、したいことなど）
・家族の予定や思い出話
・食べ物（給食、晩ご飯のメニュー、食べたいもの）
・趣味（好きな本、音楽、アニメ、ゲーム、ファッション）

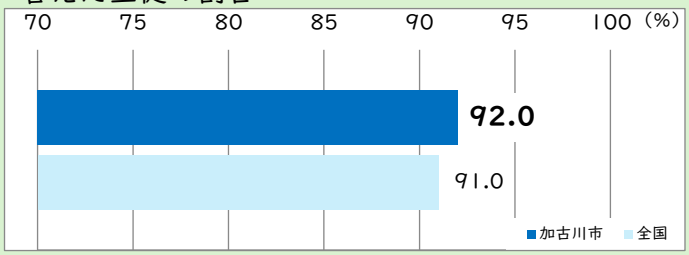
自己肯定感が高い傾向にある　加古川市の生徒

「自分にはよいところがある」と答えた生徒の割合



※「よくある」「時々ある」と回答した割合のみ表記しています。

「普段の生活の中で、幸せな気持ちになる」と
答えた生徒の割合



※「よくある」「時々ある」と回答した割合のみ表記しています。

日本のこどもたちには、自分の考えに自信が持てず、表現できないという傾向がみられます。こどもは本来、自分の思いや考えた理由を表現したい、受けとめてもらいたいと思っています。

学校での協同的探究学習と同様に、家庭での会話を通じて、「そうだったんだね」「なるほど」「わかるよ」と、こどものことばを肯定的に受けとめることで、自己肯定感が育ち、これからの人生を歩んでいくうえで大切なウェルビーイング（幸福度）も高まります。



未来を拓く学び推進アドバイザー
東京大学大学院　藤村　宣之　教授